

教職員等の指導体制の在り方に関する懇談会

平成27年7月16日(木)

文部科学省 東館7階 初等中等教育局特別会議室

加配を活用したアクティブ・ラーニング 実施に係る取組状況



埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
主任指導主事 塚田昭一

○ 説明概要

- 1 研究事業の目的・概要
- 2 アクティブ・ラーニングについて
本県の先進的な取組「考え・話し
合い・学び合う学習」推進事業
- 3 研究の実施に係る体制・取組概要
- 4 現時点での成果と課題

1 研究事業の目的・概要

【事業目的】

児童生徒が、課題の発見と解決に向けて**主体的・協働的に相互に学び合う学習方法**について、児童生徒の発達の段階、学習内容に応じた**効果的な指導方法を明らかにし、県内小・中学校への普及**を図り、指導方法の工夫改善を一層推進する。

1 研究事業の目的・概要

【全体計画の概要】

(1) 加配教員 小学校5校に配置

(2) 加配教員の活用について

(*アクティブ・ラーニング加配教員の配置要項及び実施計画書)

○地区内の推進協力校との連携

○課題解決型授業に関する分析

○年間指導計画や実践事例集などの成果物の作成

(3) 校内授業研究会・公開授業の開催

(4) 研究のまとめ

2 アクティブ・ラーニングについて先進的な取組 本県研究指定「考え・話し合い・

学び合う学習」推進事業

埼玉県教育委員会

ラグビーワールドカップ2019
埼玉県・熊谷市が開催都市に選ばれました!!

県教委だより



埼玉県のマスコット「ココボン」

生きる力を育て 絆を深める埼玉教育

No. 685

平成27年(2015年)3月20日発行

「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業

(教育局市町村支援部義務教育指導課)

県教育委員会では、平成26年度から3年間、「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業を実施しています。この事業では、児童生徒が相互に学び合う学習方法について、発達の段階、学習内容等に応じた効果的な活用方法を明らかにし、県内小・中学校へ普及をさせることにより、指導の工夫改善を一層推進していきます。

今、確かな学力を育成するため、教師主導の一斉授業だけでなく、児童生徒が相互に学び合う学習が求められています。

■「考え、話し合い、学び合う学習」

児童生徒が相互に学び合い、確かな学力の育成につながるよう、本事業では「考え、話し合い、学び合う学習」を次のような学習と整理しました。

- 自己との対話を重ねること
- 他者と相互にかかわること
- 自分や集団の考えを発展させ、共に実践に参加すること



■「考え、話し合い、学び合う学習」推進協力校 (4市町9校)

- ・桶川市立加納小学校・加納中学校
- ・小川町立竹沢小学校・大河小学校・西中学校
- ・秩父市立影森小学校・影森中学校
- ・春日部市立上沖小学校・大沼中学校

■取組内容

県内4市町の小・中学校9校を推進協力校に指定して研究を進めています。県、推進協力校等で構成する検討推進委員会において、研究の方向性を共有しながら、各推進協力校が実践研究を行っています。

<推進検討委員会>

- 県教育委員会・4市町教育委員会、推進協力校9校
- ・発達の段階、学習内容等に応じた「考え、話し合い、学び合う学習」の効果的な活用方法の検討
 - ・実践事例の整理・ホームページでの公開による普及 (H27・28)

相互にフィードバック

<各推進協力校>

- ・学習方法の実践研究
- ・指導の工夫改善
- ・研究協議会等での発表による普及

●推進協力校の取組例 (桶川市2校)

- <共通目標>
自分の考えをまとめた形で表現する児童生徒の育成
- <研究内容>
(小) より効果的に思考させるペア学習、グループ学習の工夫
(中) 学習形態とジグソー法等の組合せで思考を深める工夫
- <主な教科>
(小) 算数、体育 (中) 数学、理科

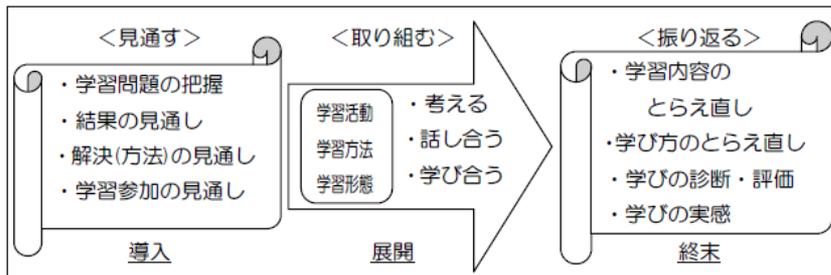
■今後の予定

平成27年度以降、実践研究をさらに充実させ、研究の成果を授業公開やホームページなどで普及していきます。また、次の学習指導要領の改訂に向けて、国では、課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習(アクティブラーニング)を重視しています。このような動向も見据えながら、本事業を推進していきます。

【問合せ】義務教育指導課 学力向上推進担当 (電話:048-830-6778)

学び合う学習のポイント

・学習への主体性の育成 ・学習内容の確実な定着 ・思考力・判断力・表現力等の育成



<学び合いの要素>

- 「自己との対話を重ねること」
- 「他者と相互にかかわること」
- 「自分や集団の考えを発展させ、



共に実践に参加すること」

<「考え、話し合い、学び合う学習」の視点>

学習者の総合的な知的活動

- ① 自己、他者、自己と他者、学習内容・方法、学びの実感、などの視点
- ② 考えの進め方や学び合い方などについて、イメージ化・可視化することが効果的
- ③ 手順や図式を、発達の段階や問題場面に即して用いたり、組み合わせたりすることが必要
- ④ 学習に参加できる可能性を予感させる学習問題の把握、認め合える学習集団の空気

2 アクティブ・ラーニングについて先進的な取組 「学び合う学習」推進事業

特色ある
教育活動

埼玉県

生きる力と絆の埼玉教育プラン

埼玉県では、中長期的な視点に立って、今後5年間の埼玉教育が進むべき姿を示した「第2期埼玉県教育振興基本計画（平成26年度～平成30年度）」を策定した。本計画では、「生きる力を育て絆を深める埼玉教育」を基本理念とし、5つの基本目標のもとに特色ある教育活動に取り組んでいる。その5つの中の1つである「確かな学力と自立する力の育成」の取組の中では、協調学習など主体的な学びの推進を行っている。

ここでは、協調学習など主体的な学びの一貫として公立小中学校で実施している県指定事業「考え、話し合い、学び合う学習」推進事業について、推進協力地区の県内4市町・9小中学校の取組を紹介する。



第2期埼玉県教育振興基本計画
「生きる力と絆の埼玉教育プラン」

○小川町の取組（思考ツール：お魚ボン図、クラゲチャート等の活用）



一人一人が考えや意見をもてるように思考ツールを活用している。また話し合う活動をより充実させるために、毎週コミュニケーショントレーニングに取り組んでいる。（小川町立西中学校）



「どうしてそう考えたの?」「その考え方がいいね!」頭を寄せ合って友達への考えに興味津々な子供たち。思考ツールを活用しながら学び合いを深める取組をしている。（小川町立竹沢小学校）



「考え、話し合う」場面の明確化とその方法の定着—思考方法カードを活用し、観点を明確にしなが、互いの考えを伝え合い、自分の考えを深める活動を充実している。（小川町立大河小学校）

※思考ツール・・・考えの進め方や考えをイメージさせる手順や図式

考えの進め方や学び合い方などについて、イメージ化・可視化することが効果的であり、本事業では考え、まとめる工夫として思考ツールを活用している。（参考:「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」(平成22年文部科学省)）

本県研究指定「考え・話し合い・

○桶川市の取組（思考ツール：KJ法、Xチャート等の活用）



進路について各自が抱えている悩みを出し合い、KJ法を用いて解決策を話し合う。悩みの共有や意見の比べ合いには一枚の紙に整理していく方法が適している。（桶川市立立加納中学校）



社会科で、「Xチャート」を活用して資料をまとめ、わかったことをジグソー法で話し合い、武士の世の中について理解を深めている。（桶川市立立加納小学校）

○秩父市の取組（思考ツール：マトリックス、分析表等の活用）



「学級活動」において個人で考え、グループで話し合い結果を共有できるよう工夫している。「マトリックス」は、分類し整理する場面で効果的にまとめることができ積極的に活用している。（秩父市立影森中学校）



体育（保健）科で「分析表」を活用し、けがの原因を「自分」と「周り」とに分けることで、けがの発生は「人の行動」と「周りの環境」によることに気付くようにしている。（秩父市立影森小学校）

○春日部市の取組（思考ツール：相関図、ボックスチャート等の活用）



国語科の「登場人物の役割を考えて読もう」で、登場人物同士の関わりやその根拠となる描写を「相関図」を使うことで、より深く理解できるようにしている。（春日部市立大沼中学校）



国語科「一つの花」の学習において、「ボックスチャート」を用いたグループの話し合いを行っている。友達の見解と自分の考えを比べながら思考を深めている。（春日部市立上沖小学校）

2 アクティブ・ラーニングについて先進的な取組 本県研究指定「考え・話し合い・学び合う学習」推進事業

[アクティブ・ラーニング授業のイメージ]

- 学級集団が課題に対するゴールを共有
- 課題に対して自分の考えを明確にもち、一人一人が学習に参加（自己との対話を重ねる）
- 他者とのかかわりを通して、自分とは異なった多様な考えを総合的にまとめる（他者と相互にかかわる）
- 課題解決に向けて協働して実践（自分や集団の考えを発展させ、共に実践に参加する）
- 協調する学級文化

3 研究の実施に係る体制・取組概要

【考え・話し合い・学び合う学習】推進協力校

(1) 4市町9校

- 桶川市立加納小学校・加納中学校
- 小川町立竹沢小学校・大河小学校・西中学校
- 秩父市立影森小学校・影森中学校
- 春日部市立上沖小学校・大沼中学校

(2) 各地区指導者

南部地区：慶應義塾大学	鹿毛雅治教授
西部地区：共栄大学	若手三喜雄教授
北部地区：埼玉大学	清水 誠教授
東部地区：文教大学	中本敬子教授
全体講師：文教大学	嶋野道弘教授

3 研究の実施に係る体制・取組概要

<平成26年度 研究1年次>

(1) 推進検討委員会

- ①第1回 平成26年5月16日(金) 14:30~16:30 埼玉会館
 - ・文教大学教授 嶋野道弘先生による講演会
 - ・事業の方向性について
- ②第2回 平成26年7月31日(木) 14:30~16:30 市民会館うらわ
 - ・学び合う学習のポイントと手法について
 - ・今後の研究の方向性について
- ③第3回 平成27年2月12日(木) 14:30~16:30 市民会館うらわ
 - ・各推進協力校からの実践報告
 - ・課題と今後の取組の方向性(次年度の見通し)

(2) 各推進協力校の主な取組

- ①校内授業研究会の開催(平成26年9月~平成27年2月)
- ②公開授業研究会
 - ・桶川市: 10月31日(金)
 - ・小川町: 2月20日(金)
 - ・秩父市: 2月17日(火)
 - ・春日部市: 2月13日(金)

<平成27年度 研究2年次>

- ・1年次の成果を生かしつつ、児童生徒が学び合う学習について、児童生徒の発達の段階、学習内容等に応じた実践を体系的に整理することで、効果的な活用を明らかにしていく。

4 現時点での成果と課題

【成果】（教員・児童・生徒対象意識調査結果）

- 推進協力校において、9割を超える教員が「学び合う学習」の必要性を感じている。
- 8割を超える児童生徒が「学び合う授業が好き」と回答している。

【課題】

- 「学び合う学習」の効果的な指導方法を明らかにする。